遊びを通した幼児期の学び

きくすいもとまち幼稚園・あつべつきた幼稚園

【研究副主題】　『遊びを通した幼児期の学びとは』
【研究の重点】　一人一人が自分の力を発揮し、互いに育ち合うための環境の構成と援助

Topic 1　一人の幼児の「〇〇したい！」から始まる遊び

Ａ児が家庭で経験したクレーンゲームを再現しようとして、空き箱を並べたりクレーンを操作する機械を作ったりしていた。その姿を見た友達が興味をもち、仲間になり、景品を作ったりお客さんの呼び込みをしたりするなど、自分たちで考えたことや、やってみたいことを共に行う中で遊びが広がっていった。

POINT「やってみたい」を大切にしよう

POINT 友達と一緒に！を支える

POINT 異年齢と共に「いいね！」を共有

●研究アドバイザーから　北翔大学 教育文化学部 教育学科　准教授 工藤 ゆかり 氏

「もっとこうしたらいいんじゃないか？」と幼児が自ら気付いてやってみる『主体性の発揮』から始まり、自分だけで納めず友達に伝えて一緒に試行錯誤しながらやってみる『対話的な学び』をいろいろな場面で繰り返していくことで、『深い学び』になっていきます。そのために、幼児の気付きや思いや考えに共感したり、環境を整えたりして、幼児の直接的な体験を通して学びの機会を保障していくことが大切ですね。

子ども自身の『発達しようとする力』は、保育の中で他者や環境との影響関係によって発揮されるといえます。Topic２ではＩＣＴを用いて個人の経験の差を補い、仲間とのイメージを共有しやすくする援助をしたことで、仲間と力を合わせて花火大会を行う姿につながりましたね。

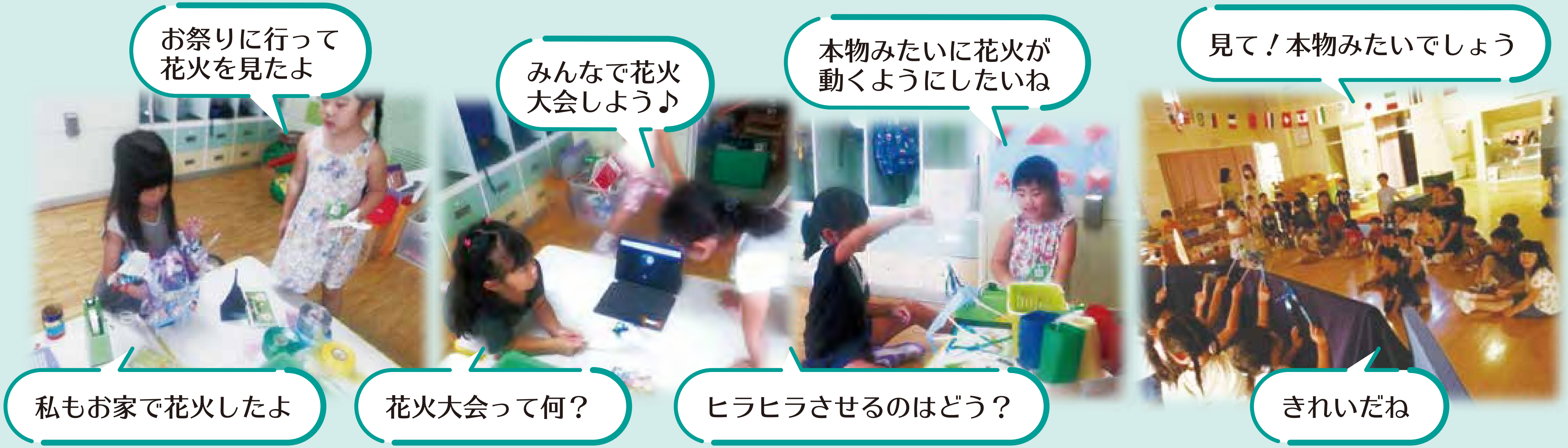
Topic 2 友達と共通のイメージをもって進める遊び

夏休み明け、夏祭りの経験から「花火大会をしたい」というアイディアが出た。しかし、幼児によって花火に対するイメージが多様で、共有できずにいた。

POINT 家庭での経験を遊びに生かそう

POINT イメージを共有できるようにしよう（タブレットの活用）

POINT みんなで力を合わせる遊びで達成感・満足感を味わおう



わかったこと	一人一人が自分の力を発揮	互いに育ち合う
	●家庭での経験や友達との楽しかった共通体験など、子どもにとって身近な心動くできごとは、遊びへの思い入れも高まりやすく、イメージの広がりや工夫が見られる遊びとなる。 ●保育者が、一人一人の遊びにしっかりと向き合い、環境の構成と援助を行うことで、子どもにとって必要な学びが保障される。遊ぶ場所をどこに設定すると互いの遊びが見えるかという視点で環境を構成すると、幼児同士の関わりや新たな気付きが生まれる。このことは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に行い、主体的 ·対話的で深い学びを実現する小学校以降の学びとつながる。	●動画や写真の活用、設計図や予定表の作成など共通のイメージをもてる環境の工夫をすることで、伝え合いがより活発になる。そこで新しいアイディアが生まれ、友達と一緒に遊びに必要なものを準備したり、イメージに合うよう試行錯誤したりする姿につながる。